

第3次対がん総合戦略研究事業

(厚) 第3次対がん総合戦略研究事業の事後評価について

研究事業の概要

がんの罹患率と死亡率の激減をめざして平成16年度に策定された「第3次対がん10か年総合戦略」を受け、厚生労働省では平成16年度より平成25年度までの10年間に渡って、第3次対がん総合戦略研究事業を推進。

がんの本態解明をめざした研究及びその成果を幅広く応用するトランスレーショナル・リサーチ(基礎研究の成果を臨床・公衆衛生に導入するための橋渡し研究をいう。)並びにがんに対する革新的な予防法、診断法及び治療法の開発を推進することを目的とする研究を実施(第3次対がん総合戦略研究事業)。

がんについて、より効果的な保健医療技術の確立を目指した臨床研究を推進し、根拠に基づく医療の推進を図ることを目的とする研究を実施(がん臨床研究事業)。

予算額と課題数

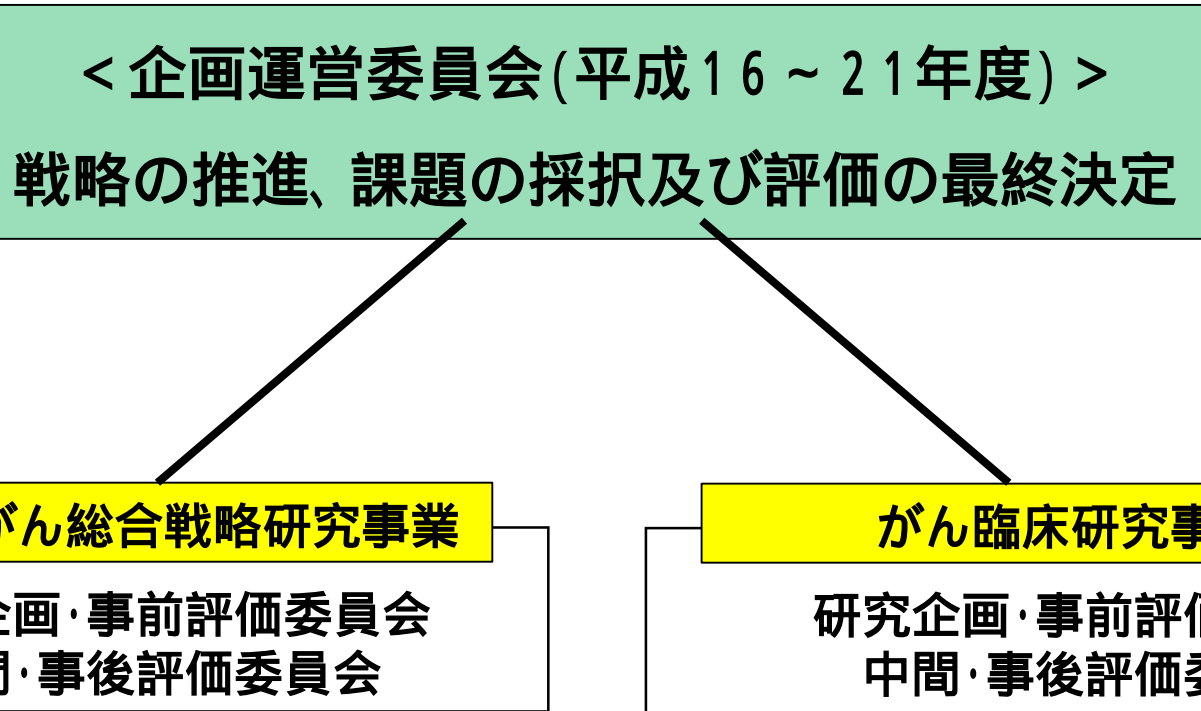
	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
予算(百万円)	3,233	3,588	3,738	4,747	5,379	5,204	5,401	4,323	3,450	2,756
課題数	78	91	100	122	136	135	152	164	156	125

研究事業全体において、総予算額(推進事業を除く)は約418億円、総課題数は1,259課題

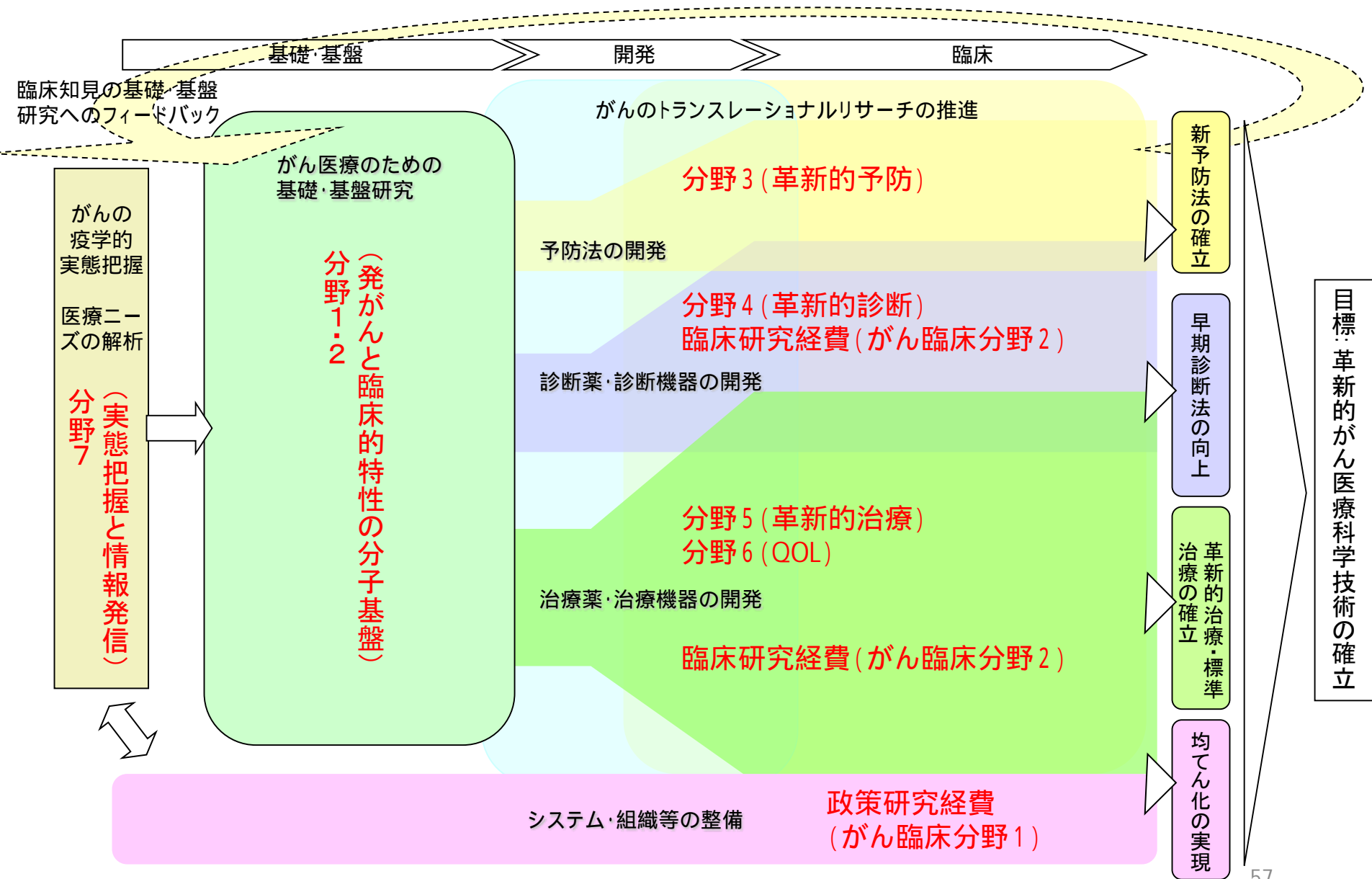
事後評価

本研究事業の事後評価については、「厚生労働省の科学研究開発評価に関する指針」(平成22年11月11日厚生労働省大臣官房厚生科学課長決定)に基づき、研究事業の所管課が外部評価により行い、その結果については厚生労働審議会科学技術部会で審議された。

推進体制について

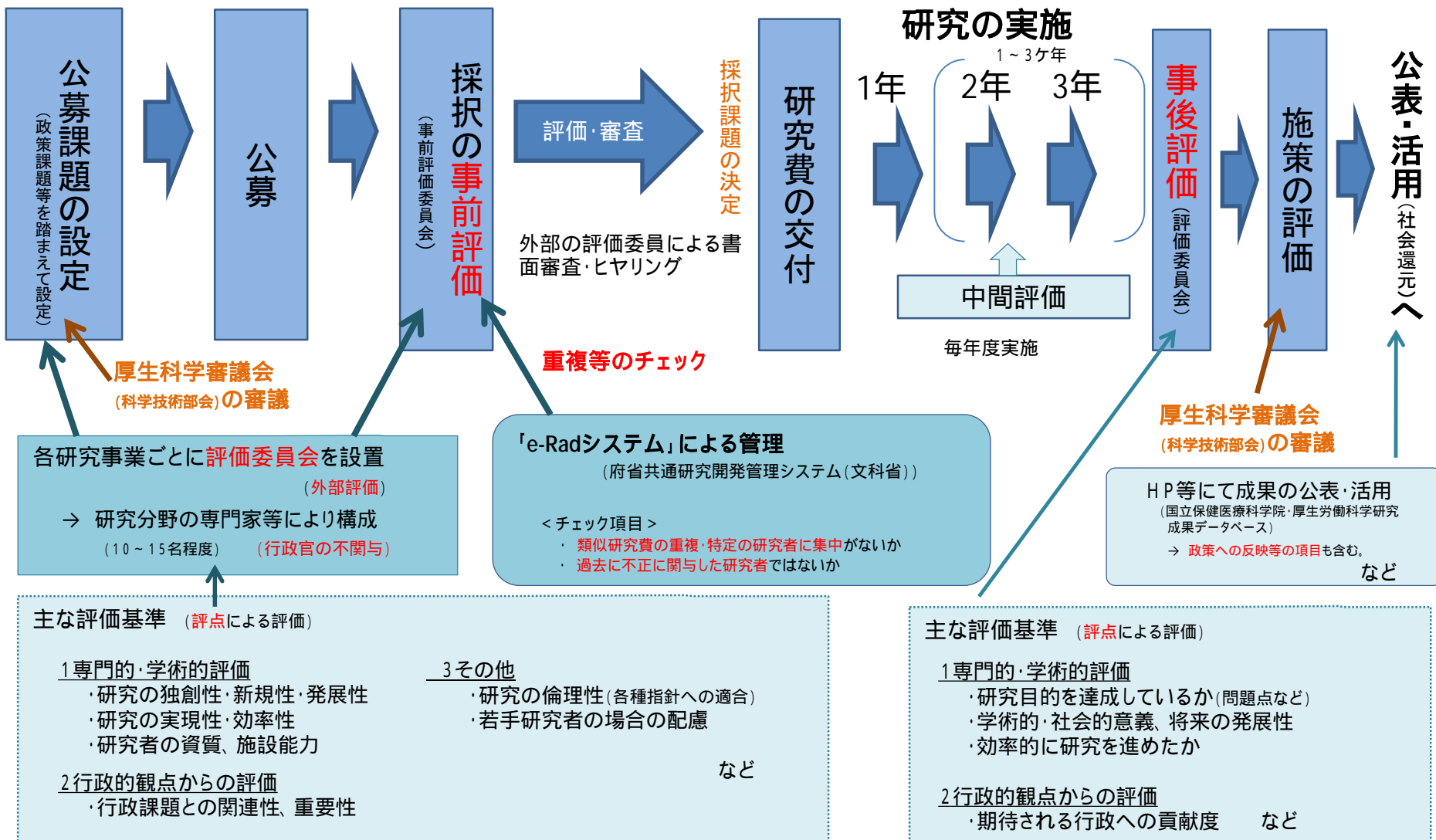


第3次対がん総合戦略研究事業の分野構成



厚労科研費の研究評価等の流れ

「厚生労働省の科学研究開発評価に関する指針」等に基づき、研究評価を実施。
事前・事後の評価を通じ、研究の内容を評価（成果についても公表）



(厚)第3次対がん研究：年次ごとの 中間・事後評価の状況(平成23～25年度)

年度	研究事業名	事業予算 (千円)	課題 件数	中間・事後評価評点
平成23 年度	第3次対がん総合戦略 研究事業	2,667,559	75	5.0～5.9点:5課題、6.0～6.9点:36課題 7.0～7.9点:30課題、 8.0～8.9点:3課題
	がん臨床研究事業	1,655,800	88	4.0～4.9点:1課題、5.0～5.9点:11課題、6.0～6.9点:45課題、 7.0～7.9点:29課題 8.0～8.9点:2課題
平成24 年度	第3次対がん総合戦略 研究事業	2,112,004	78	5.0～5.9点:3課題、6.0～6.9点:47課題 7.0～7.9点:26課題、 8.0～8.9点:2課題
	がん臨床研究事業	1,337,592	78	5.0～5.9点:8課題、6.0～6.9点:42課題 7.0～7.9点:28課題
平成25 年度	第3次対がん総合戦略 研究事業	1,833,900	73	5.0～5.9点:5課題、6.0～6.9点:45課題 7.0～7.9点:19課題、 8.0～8.9点:4課題
	がん臨床研究事業	921,955	52	5.0～5.9点:4課題、6.0～6.9点:39課題 7.0～7.9点:9課題

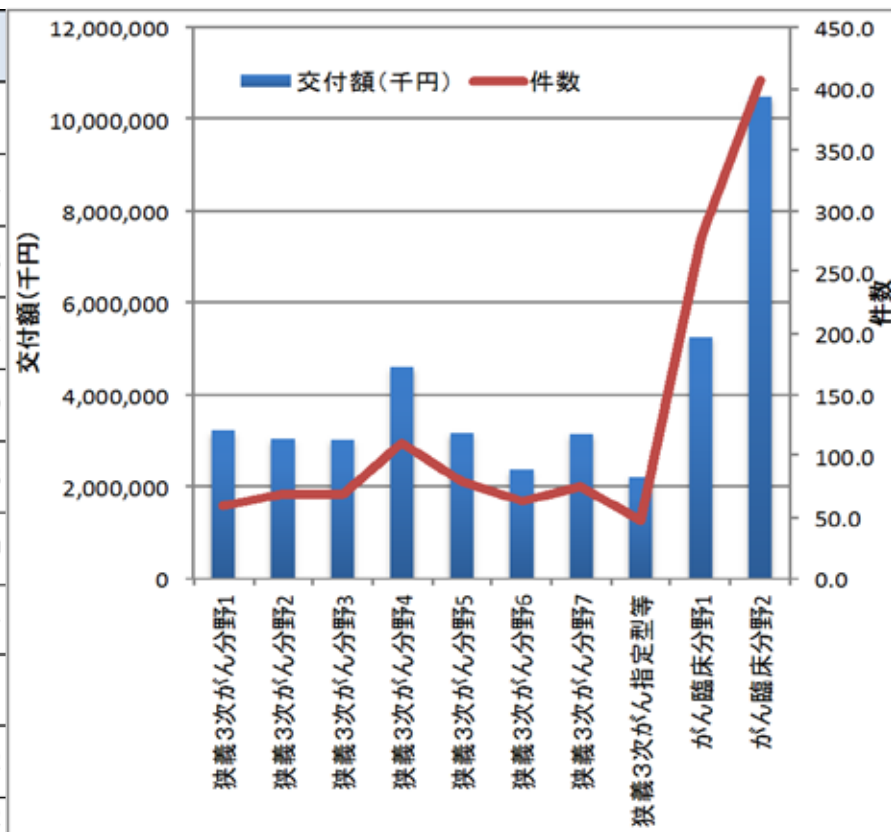
各委員より下記の10段階で評価をいただき、平均点を算出

1～2点:劣っている、3～4点:やや劣っている、5～6点:良好、7～8点:優れている、9～10点:特に優れている

がん研究分野別の第3次対がん研究費

がん臨床・分野2が最も多く10年間の合計で約105億円、ついでがん臨床・分野1が約53億円、狭義3次がん・分野4が約46億円、狭義3次がん・分野1が約32億円の順であった。

		交付額 (千円)	件数	一件あたり 平均(千円)
狭義3次 がん	分野1 発がんの分子基盤に関する研究	3,215,449	60	53,591
	分野2 がんの臨床的特性の分子基盤に関する研究	3,036,485	68	44,654
	分野3 革新的ながん予防法の開発に関する研究	3,025,877	68	44,498
	分野4 革新的な診断技術の開発に関する研究	4,610,062	111	41,532
	分野5 革新的な治療法の開発に関する研究	3,160,750	79	40,009
	分野6 がん患者のQOLに関する研究	2,379,991	63	37,778
	分野7 がんの実態把握とがん情報の発信に関する研究	3,140,266	75	41,870
	指定型など	2,203,080	47	46,874
がん臨床	分野1 主に政策分野に関する研究	5,259,543	279	18,851
	分野2 主に診断・治療分野に関する研究	10,490,582	408	25,712
合計		40,522,085	1,258	32,212



研究開発目標に関連した成果等

【研究開発目標】

本研究事業を包含する「第3次対がん10か年総合戦略」の戦略目標は以下の5項目であった。

- (1) 進展が目覚ましい生命科学の分野との連携を一層強力に進め、がんのより深い本態解明に迫る。
- (2) 基礎研究の成果を幅広く予防、診断、治療に応用する。
- (3) 革新的ながんの予防、診断、治療法を開発する。
- (4) がん予防の推進により、国民の生涯がん罹患率を低減させる。
- (5) 全国どこでも、質の高いがん医療を受けることができるよう「均てん化」を図る。

戦略目標のうち(1)～(3)が「がん研究の推進」に相当する。

目標の達成ができたもの

- (1) ・がん関連転座遺伝子の発見、胃がん発生機序としての胃粘膜DNAメチル化異常の解析等、世界を主導する研究成果が認められた。(研究分野1)
 - ・分子基盤の解明が進み、複数の研究が企業との共同研究に移行。(研究分野2)
 - ・多くの有意義な実験モデルマウスを開発。(研究分野1)
- (2) ・さまざまな分野での治療法について臨床応用を目的とした研究が進行。(研究分野4)
 - ・多くは試作段階までではあるが、診断機器や医療機器の研究が進んだ。(研究分野4)
- (3) ・多施設共同研究の推進が常に重視されてきたことは評価される。(がん臨床分野2)
 - ・ガイドラインに収載された臨床試験もある等、標準治療の確立に貢献。(がん臨床分野2)

研究開発目標に関連した成果等

推進が不十分であったもの

- (1) ・ 研究対象とするがん種の選択方法に偏りがみられた。 (研究分野 2)
 - ・ 生殖細胞系列遺伝子多型・変異に関する研究が不足していた。 (研究分野 2)

- (2) ・ 化学予防など革新的な予防法の開発には至らなかった。 (研究分野 3)
 - ・ 新規診断法の開発は進んでいるが臨床的評価まで行えた研究は少ない。 (研究分野 4)

- (3) ・ 恒常的組織で行われていない臨床試験の進捗や品質管理が不十分。 (がん臨床分野 2)
 - ・ 高齢者、若年者等さまざまな患者の状態に着目したQOL評価のデータが乏しい。
(研究分野 6)

研究開発目標に関連した成果等

1. 論文

	総数
刊行された論文	16576
国際誌に投稿された論文(英文)	13887
有名雑誌 ¹ に投稿された論文	640

1 インパクトファクター10点以上

2. 知的財産権

	総数
出願・登録総数	268
特許発明数 (査定・登録済み)	94
国内特許出願中 (査定・登録未)	102
国際特許出願中 (査定・登録未)	72

3. 企業への導出

	総数
有望シーズの企業への導出件数	35

4. トランスレーショナル・リサーチの進捗状況

	総数
臨床試験・先進医療等に進んだ課題数	72
その他予防・医療現場への導出数	19

5. ガイドライン作成への貢献

	総数
ガイドライン作成への貢献	154

全研究代表者への事後調査(回答率約70%)と、総合研究報告書記載内容に基づく単純集計で、一部重複等を含む参考データ